

放送番組審議会議事録

- 1 開催年月日 平成19年7月31日(火) 19:30～20:30
- 2 開催場所 奄美市名瀬金久町4番3号 特定非営利活動法人デイ会議室
- 3 出席委員 委員総数 8名
出席委員数 5名
出席委員の氏名 西平功／越間誠／高良俊礼／重信千代乃／望月信悟
欠席委員の氏名 大久保惣市／中村瑞希／山田通央
放送事業者側出席者名 丸田泰史／水間由里子／中原優子／嘉川孝之／小野健太郎

4 議題

- (1) 「ワキャナキャシマ自慢」について
- (2) その他

5 議事の概要

「ワキャナキャシマ自慢」(ワキャ=私たちの、ナキャ=あなたたちの、シマ=集落のこと。) 月一土毎朝5分程度の帯番組。区長、ご長寿、行事、シマの唄など、1週間で1集落を紹介。現状、自治会に連絡を取り取材。自治会があまり機能していない所、特色の少ない所もあり苦労している。今回は崎原集落の滝を紹介している回を聞き、意見を伺った。自治会という括りにこだわらず、人や音などに焦点をあて、違った切り取り方で集落を紹介する等、コーナーをより充実させるために意見が寄せられた。また、その他、放送番組をより充実させるための意見や質問が寄せられた。

6 審議内容

(1) 「ワキャナキャシマ自慢」について

望月委員

続けるのが難しそうな企画だ。地元の笠利町であれば細々としたネタをつかめそうではあるが、名瀬市街地では難しいのでは。1地域1週間にこだわらず、色々な所に行ってみては。

重信委員

滝の紹介をしたが、滝の名前が知りたかった。

人物紹介であればどんな所でも1週間つかめるのではないか。施設の紹介は、公共物だけではなく、手づくりのお店なども紹介してもらえれば、島興しにつながるのでは。

高良委員

「人」に注目するのはいい案だと思う。市街地では活動していない自治会、色々利害のある商店会など難しいと思う。街中での立ち話のようなものはどうか。釣りをしている人に声をかけてみるなど、たまには集落を抜け出すのもいいと思う。

越間委員

日常のごくありふれたことを、どれだけ面白く伝えていくか。気づかないところに面白い人がいたり、面白いことをやっていたり、面白い風景があったりする。これを掘り起こして伝えていくことが面白いことだし、意義があることだと思う。1週間の枠付けは無理にしなくてもいいのでは。穴

埋めめだと面白さに欠ける。地域活動があまり活発でない市街地ならば商店街活動とか、自治会以外に着目してもいいのでは。

さきほどの滝の名前は、「タビラの滝」と言っていると思う。もしかしたら名前にも由来があるかもしれない。そういうものを盛り込んでいくと、聞いた人も勉強したなという感じになると思う。

重信委員

きちんとしたアクセス方法などもあれば親切だと思う。

放送局／中原

滝を案内してくれた人によれば、人が簡単に来れない、皆が知らないのが逆にいいというような場所で、入口も非常に分かりにくく、来るのであれば崎原の人と一緒に来て欲しいということです。

高良委員

そういった、秘境に入る時の注意のようなものも最初に強調してはどうか。

越間委員

非常に細い道でハブが出るような危険もあるので、最初に言っておいたほうがいいかもしれない。

西平委員

ラジオの特色として「音」の風景、勝手に奄美ベスト十景とか作っても面白いと思う。計画的ではなくランダムに取材して録りためておいて、後々「秘境編」など特集しても面白いと思う。

越間委員

技術的なことを言えば、音声のレベル調整をもう少し工夫したほうがいいと思う。ナレーションを休んで滝の音を聞かせるところは、滝の音をもっとレベルを上げて聞かせてもよかったと思う。

高良委員

機織り、醸造の音、など、シマの音を聞いてみたい。ほんの何秒かでもそういったものがあれば、番組のカラーも出てくるのではないかな。

越間委員

「地域」ではなく「音」を主体にした作り方をするのであれば、この音は何の音だろう、という導入の仕方をしていって、実はこの集落ではこういうことが行われているよ、という紹介の仕方もある。取っ掛かりということで地域をテーマにしているが、色々な形や物をテーマに添えても面白いと思う。

(2)その他

望月委員

シマ自慢に関わる事でもあるが、小さい集落の小さな商店でのやりとり等あれば面白いと思う。

重信委員

必ずしも公共性だけでなく、本当に頑張っている人達に光をあてて紹介することは、島興し NPO であるディ！の役割でもあるのかなと思う。

西平委員

「自販機でジュース買うんじゃなく、このばあちゃん家に行って買って！」とか、遊び感覚でもいいのでは。

高良委員

奄美らしさには2つの大きな柱があると思う。1つは伝統文化や手つかずの自然が残っていること、

そしてもう1つ、観光客の人が口を揃えるのが、島の人と話していて楽しいということ。たとえ店で取り扱っているものが地場産のものでなくても、人がそこで一生懸命にやっている、ユニークにやっているということは、充分奄美らしさになるのではないだろうか。

ディ！の方針でもある島の再発見として、「みんなが共感できる奄美らしさをみんなで見つけていこう」と、リスナーの好奇心と想像力を刺激していくことが大事だと思う。

越間委員

高良氏の意見に共感する。インタビューをしている中原さんの聞き方が親しみがわく。

ディ！は若者向きでテンポよく、今風な音の作り方をしていると感じる。思い切って、気楽な表現があってもいいと思う。

番組は情報としてだけでなく、BGMのつもりで聴けるような心地よさ、音作りをしていると思う。

NHKのように堅くならなくても、普段着のまま思い切りやっていけばいいと思う。

西平委員

ディ！は島の若者の第二次文化ルネッサンスだと思う。第一次は復帰前、新民謡・演劇等がおこったが、それに近いものがある。それを意識しながら成熟させていってほしい。

放送局／中原

復帰前後の話は非常に興味深く、会ってお話をお願いしたいが、その世代の方でなかなか承諾していただける人がいない。誰かの紹介があると潤滑になるのですが。

高良委員

戦争、復帰運動体験者など、若い人達に自分達の話をして通じるものかという気持ちがあるのだと思う。その時代を知らない人達は、話を持ちかける前に、奄美の辛い歴史、大変だったことは最低限勉強して、「この人になら話してもいいな」というように引き出すのも1つの手だと思う。

重信委員

そういった話もラジオだから心地よく聴けると思う。テレビで見るのとはまた全然違う。

先日の山田薫さんとのやりとりも、すごく心地よく感じた。

放送局／中原

山田先生からはすごく色々な事を教えていただいています。

山田先生のようによくお話をされる方は、承諾していただけるのですが、たまたま出会って感銘を受けた方たちは、なかなか口説きにくい。

有名な人だけが出るのではなくて、やはり色々な所から、知らない人を出していきたい。

重信委員

リスナーの反応は？

放送局／中原

クリームも含めて意外に少ないと感じる。

重信委員

先日の新潟の震災でラジオ局の大切さを感じた。

西平委員

奄美まつりの放送は、何か企画があるか。

放送局／丸田

各イベントについて予定がありますが、舟こぎ大会は途中経過の放送と決勝の中継をしたいと考え

ています。音だけでどのように伝えていくか、模索中です。また、交通規制について放送する予定です。

西平委員

コミュニティ FM 同士でバーターの企画はあるか。また、聴取者サービス等の企画はあるか。

放送局／丸田

バーターに関してはまだありません。聴取者サービスは、毎週シネマパニック様から招待券プレゼントの提供があり、また、他からも新製品の PR などリスナープレゼント提供があります。

越間委員

ニュースについて、現在地元新聞を読んでいるが、紙面に載る前に前倒しで情報提供を受けることはできないか。また視点を变えて解説する、当事者に話を聞く等はできないか。

放送局／丸田

前倒しの件交渉しましたが、新聞の購買率が伸びないという事で、当日発行の記事から原文のままを読む条件で新聞社と協定を結んでいます。読み言葉への変換は承諾済ですが、主観を加える事はできません。

- 7 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日 なし
- 8 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日
(日) 自社放送：平成19年8月11日（土曜日）15:00～「でい！お茶ど！」番組内で放送
(月) 書面の備置き：平成19年8月11日（土曜日）から、当該事項を記載した書面（議事録）を当法人事務局へ備置き、聴取者の閲覧希望に対応
(火) インターネット：平成19年8月11日（土曜日）より当法人インターネットのホームページに転載
- 9 その他の参考事項 なし